



学校だより

NO4

令和3年7月16日：発行責任者 学校長

1学期も残すところあと1日となりました。5月～6月には、岡山県にも緊急事態宣言が出され、学校もさまざまな制約を受けました。とはいえ、昨年とは違い予定通りの日に終業式を迎えられそうなことにほっとした思いもしています。

20日から始まる長い夏休みが子どもたちにとって思い出に残る有意義なものになるよう願っています。

有意義な夏休みにするために（子どもが考えて決める）

今、学校では「子どもの主体性を高める」ことを大事にしています。主体的に生きることは、学習だけでなく、生活全般を充実させることにつながります。

夏休みの各ご家庭でも、子どもの主体性を高めるように意識していただければと思います。

そのためには、周囲の大人が・・・

- 1 必要以上に「口出し、手出ししすぎないようにすること」
 - * 子どものやることなすことに口出し、手出ししすぎると子どもは「大人にやってもらわないと何もできない」状態になってしまいます。
- 2 すぐに「答えを出してしまわないこと」
 - * 結果だけを与え、なぜだめなのか、どうすればいいのかを子どもに考えさせないと子どもは、自分で考えることができなくなります。
- 3 だから「子どもがやることは、できるだけ子どもに考えさせて決めさせること」



終業式では、ゲームやテレビ、インターネットの動画などメディアの時間を（1～4年はおうちの人と相談しながら、5・6年はできれば一人で）自分で考えて決めるように話をしようと思っています。

通知表を生かしてください



通知表の成績が良かった場合も、悪かった場合も、今後につながるよう生かしてください。

成績が良かった部分については、「がんばったね」とたくさん褒めてください。悪かった部分については、叱るのではなく、どうすればいいのか一緒に考えさせてみてください。例えば算数の成績が悪かった場合、算数そのものが苦手だと思わせるのではなく、算数のどこが不得意なのかを振り返らせてください。通知表は子どものやる気を伸ばし、成長させるきっかけになるものです。せっかくの機会ですから、有効に活用してください。